

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
希少がん診療・相談支援におけるネットワーク構築に資する研究
（分担研究報告書）

「Webを用いた希少がん診療の新たな展開に関する研究」

研究分担者 後藤 悌 国立がん研究センター中央病院呼吸器内科 医長

研究要旨

本研究は、希少がん診療における地域格差の是正を目的として、遠隔地の医師と専門医がWebを通じて直接相談できる仕組みの構築を目指した。Teams®などの既存のICTツールを用い、限定的環境下で技術的実現性を確認したが、実運用には至っていない。相談に要する準備負担や制度上のインセンティブの欠如、事務的支援体制の不備が普及の課題である。今後は、対象疾患を絞った段階的導入と、医療者や組織への持続可能な評価体系の整備が必要である。

A. 研究目的

本研究は、希少がんに関する知見や経験の偏在という課題に対し、遠隔地の医師と希少がんの専門医がWebを通じて迅速かつ直接に相談できる仕組みを構築し、希少がん診療の地域格差の是正および診療の質向上を目的とする。初期段階では、対象疾患と相談対応医師を限定し、安全かつ実用的な運用体制の確立を図る。

B. 研究方法

- Web会議システム（Teams®等）を用いたオンライン相談の試行を実施。個人情報保護の観点から参加者を限定した運用を行い、実用性・安定性を検証。
- 医療従事者向け連携アプリを活用した遠隔相談の研究にも参加し、実装可能性と臨床現場での活用性を検討。
- 特定の希少がん（例：肉腫、GIST、中皮腫、胸腺がんなど）を対象に、相談頻度、相談内容、対応時間などのデータを収集し、効果指標を分析。

（倫理面への配慮）

本研究では、個人情報の取り扱いに十分配慮し、Teams®等のツールを用いる際には患者の特定につながる情報を表示しない設定で実施。アプリ利用時も、医療者間のみ限定した閉域ネットワーク上で運用を行い、個人情報保護方針を遵守する。必要に応じて倫理審査委員会の承認を得たうえで、データ収集と運用評価を行う。

C. 研究結果

Teams®を用いたWeb会議形式の遠隔相談について、参加者を限定することで個人情報が画面上に表示される環境でも一定の相談可能性があることを技術的に確認した。また、医療従事者向けアプリによる相談体制については、別の研究への参画

を通じ、画像共有機能や双方向通信の実用性を確認した。いずれの手法も、技術的には希少がん診療に応用可能であると考えられたが、現時点では本研究内での実運用には至っていない。

D. 考察

本研究で検討した遠隔相談の仕組みは、技術的な実装可能性が確認されたものの、実際の導入においては複数の課題が残されている。特に、相談を行う側の医師にとっては、事前の資料作成や症例整理に要する時間的負担が大きく、制度上の評価や報酬といったインセンティブが存在しない点が、普及の障壁となっている。また、相談対応側や事務局（バックオフィス）における人的資源の確保・評価の仕組みも不十分であり、持続可能な運用体制の整備が不可欠である。対象疾患を限定するフェーズ導入など、段階的な拡張が現実的であると考えられる。

E. 結論

希少がんにおける専門医との遠隔相談体制の構築は、地域医療格差の是正に向けた有望なアプローチであるが、実運用にはインセンティブ設計と支援体制の整備が必須である。本研究を通じて技術的な実装可能性は確認されたものの、今後は医療従事者の業務負担や組織的運用体制を含めた制度的整合の議論が必要であり、政策支援のあり方も含めたさらなる研究が求められる。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表
なし

2. 学会発表
なし

(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

4. その他

なし